八王子遺跡（はちおうじ）

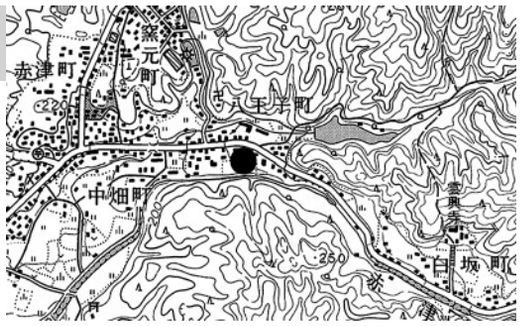
所 在 地　瀬戸市八王子町地内

調査理由　東海環状自動車道建設

調査期間　平成 13 年８月

調査面積　300 ㎡

担 当 者　服部信博・鈴木　裕・武部真木



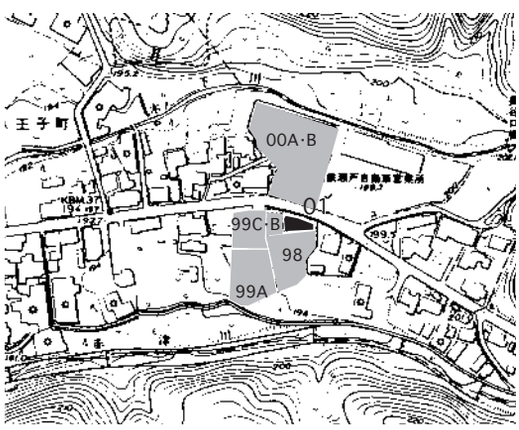
調査地点（1/2.5 万「多治見･猿投山」）

調査の経過　調査は東海環状自動車道建設にともなう事前調査として、国土交通省愛知国道工事事務所から愛知県教育委員会を通じた委託事業として実施した。遺跡の調査は平成 10 年度から継続して行われており、本年度の面積は県道瀬戸・設楽線に面する 300 ㎡である。

立地と環境　遺跡は赤津川と木下川によって形成された狭小な沖積地に立地する。最も高い部分を東西方向に県道が通り、この両側に宅地が造成されている。遺跡東方 500m には縄文時代と中世の複合遺跡である白坂雲興寺遺跡があり、また木下川右岸には縄文時代～近世の複合遺跡である長谷口遺跡が隣接して存在する。

調査の概要　調査地点は道路建設および家屋建築による削平を受けていた。表土を除去するとすぐ黄褐色粗粒砂～シルト層のベースに達し、包含層の堆積は確認されなかった。近代～現代の窯業関連遺物を含む撹乱土坑、時期不明のピットなどを検出した。既に調査を終えた県道北側の 00 A区でも道路に面する部分が高く、広く削平を受けていた。縄文早期を中心とした遺物包含層は木下川に接する 00 B区北部に広がり、これらは約１m の比高差を測る。また、県道南側 98 、99 年度調査区でも縄文～中世の遺物包含層の厚い堆積がみられた。

以上のことから道路建設以前の旧地形はさらに高い尾根状を呈しており、この地点の縄文時代の生活面は削平されたものと思われる。（武部真木）



調査区位置図

調査区全景